

河井隆志教諭の話

今回は3年生という受験勉強真最中の生徒たちが対象でしたが、目先の受験勉強とはまた違った話が聞けて良か

ったのでは。質問があんなに出たのは驚きました。

理数科ではグループワークに特に力を入れています。生徒に感想を書かせると、日頃友達同士で真面目に話さないから「こんなことを考えているんだ」

と、友達の新たな面を知って新鮮なようです。

総合的な学習の時間の担当はもう3年目。常にテーマ探して頭を悩ませています。今回は今後生きていく中で、一生役に立つことを考えました。

群馬県立前橋女子高校 文科省モデル事業指定校での実践に協力

群馬県の前橋女子高等学校では、10月29日にかん教育の出張授業が行われた(主催：群馬県教育委員会、協力：日本対がん協会)。群馬県は文部科学省の平成26年度モデル事業「がんの教育総合支援事業」のモデル地域に採択され、伊勢崎市立第一中学校と県立前橋女子高等学校がモデル事業実施校に指定された。

県はモデル事業を実施するために、研究者や医師会、患者団体、PTA、養護教諭、保健所関係者などからなる協議会と、指定校の教諭や市や県のがん対策部門、県教育委員会などで構成する検討委員会を設けて、モデル事業に取り組んできた。

具体的には教職員対象のがんの教育についての研修、学校におけるがんの教育の実践、指導資料の作成、がんの教育に関する講師一覧表の作成など。今回の出張授業はそのモデル事業の一環として計画され、日本対がん協会が協力した。

当日の講師は山王病院副院長で呼吸器センター長の奥仲哲弥先生。モデル校での実践は、川崎市の中原中学校に続き2回目だ。1年生325名全員が体育館に集まり、講演会形式で1時間の授業が行われた。

奥仲先生はまず生徒たちにクイズを出しながら、手際良くがんの基礎知識を説明した。続いて専門である肺がんの診断と治療法について詳しく解説。特に手術に関しては、動画も見せながらいかに技術が進み、手術が低侵襲で身体の負担が少なくなっているかを、人気のテレビドラマの話題なども織り交ぜてわかりやすく解説した。

昔は30センチ切らなければいけない手術が今は4センチで済むことや、出血はわずかに20CC程度であることなどを話すと、生徒たちも俄然興味がわいた様子だった。手術の話の流れで、喫煙者の手術がいかに難しいかということから煙草の害にも触れた。

最後に医師の仕事は皆が思っている



講義する奥仲哲弥先生

よりずっときつい仕事だけど、ただ勉強ができるから医師を目指すのではなく、困っている患者を助けてあげたいと思う人こそが、ぜひ医療系に進んで下さいと熱いエールを送った。

続いての質疑応答では、「遺伝子検査についてはどう思うか」とか「身内に子宮頸がんを患った人がいるが、再発率はどのくらいなのか」といった、かなり専門的な質問が寄せられた。最後に生徒代表が「がんについて誤解していた。家族や身内に今日の話を知りたい」と挨拶した。

その後、同校新聞部が奥仲先生にインタビュー。全校生徒や保護者への啓発につなげた。

意見交換会

講義の後は県や市の教育委員、県がん対策推進室、教諭や養護教諭などの学校関係者や保健師など20名あまりが出席して、熱心に感想と意見交換が行われた。

「構成がとても良かった。手術場面の動画もリアルで良かった。眠気覚ましになったのでは」「手術動画を解説しながら見せてくれて良かった」「(刺激的な映像に)配慮するかは意見がわかるところだが、若い子は意外と平気。早期発見の大切さに力点を置いていたのが良かった」「女子高生の本物を見抜く眼力はすごい、手術シーンはかえって説得力があった」「ただし事前に

予習あればさらに効果的。意外に好評な手術シーン



見たくない人は見なくても良いと呼びかけることは必要」など様々な意見が出た。

今回の授業を中心になって運営した前橋女子高校養護教諭の塚本晶子先生

は、「非常に面白く1時間では勿体なかった。うちの生徒なら2時間でももったと思う。できれば事前に保健の授業で予習していると、さらに良かったと思った」と話す。

奥仲先生は「予習してもらおうと再初の基礎知識部分を省略できる。その分マンモグラフィの実態や、オペ映像などを増やせる。初期編、応用編と分ける方法があるかも知れない」と答えた。

最後に群馬県教育委員会の新井孝弘氏が、「今年は2校だけでの実践だったが今後拡大していきたい」と述べて閉会した。